

平成 13 年 12 月 21 日現在

淀川水系流域委員会 第7回琵琶湖部会（2001.11.20開催）概要

（1）開催日時

平成 13 年 11 月 20 日（火） 10：00～17：00

（2）視察コース

第7回琵琶湖部会では、安曇川下流から上流に向かって移動しながら、人工河川や安曇川の梁漁や新旭町内のカバタなどを視察した。朽木の昼食会場では、安曇川と人との関わりや朽木の漁業について、地元の方からお話を伺った。

午後は北川沿いに上流に上り、北川第2ダムサイト予定地を視察した。その後北川、針畑川の源流地域を視察した後、再び安曇川上流を経て琵琶湖方面へ移動し、堅田内湖を視察した。

（3）概要

1.人工河川

- ・アユの産卵場を人工的に造成した施設である人工河川では、施設の概要とその効果についての説明が行われた。委員からは、人工河川の生態系への影響についての質問があった。
- ・人工河川はアユの産卵場を人工的に造成したものである。アユは琵琶湖へ流入する河川の河口部を唯一の産卵場としているため、湖水位の低下はアユの産卵場を喪失させ、ひいては、あゆ資源に大きな影響を及ぼすことになる。こういった状況に対応するため、この施設では、人工河川を遡上してきたアユや養殖アユを産卵床に運んで卵を産みつけさせ、ふ化した仔魚を琵琶湖へ送り出している。人工河川は年々着実に実績をあげ、アユの漁獲量は以前より高い水準で安定し、現在では、人工河川でふ化したアユが琵琶湖のアユの全漁獲量の約 10%を占めるにいたっている。施設概要が説明された後、委員と施設管理者との間で質疑応答が交わされた。
- ・自然にないサイクルでアユを送り出す人工河川が琵琶湖のアユに与える影響は、現在のところ、調査されていない。
- ・この施設で産卵させる養殖のアユは、北湖周辺で採捕したアユを姉川の人口河川で産卵・ふ化・養殖したものである。過去において試験的に琵琶湖以外のアユを用いたこともあったが、その影響を調査するにまではいたっていない。
- ・ここから流下されるアユで冷水病を保菌しているものがほとんどいないため、冷水病とこの施設の因果関係はないと思われる。
- ・人工河川という「不自然さ」が琵琶湖のアユの脆弱化の一因となっているとは考えにくい。ふ化したアユをすぐに琵琶湖へ送り出しているため、自然のアユとなんら変わりはない。
- ・人工河川によって増加したアユが琵琶湖の魚相に影響を与えていると考えられなくはないが、いまのところ、具体的なデータはない。

2. 安曇川の梁

- ・梁（やな）漁とは、河川の一部を仕切るように木や竹を扇形に並べて設置し、川をさかのぼってきた魚を川岸にあるカトリヤナグチと呼ばれる陥穽に誘導して漁獲する方法のことを言う。安曇川河口付近の北船木には毎年5月頃になると弓型のヤナが作られ、季節の風物詩のひとつに数えられている。
- ・当日は北船木漁協組合長の駒井氏にお越しいただき、安曇川の梁漁は1000年の歴史を持ち、次の世代へこの伝統を残してゆく義務があると語っていただく一方で、上流域のダム建設工事にとともなう川の濁りや冷水病の影響が深刻になりつつある現状を切実に訴えられた。

3. 新旭町のカバタ

- ・新旭町内では、町のいたるところから湧き出す水を利用した生活様式 川端（カバタ）文化について、新旭町役場の方から説明が行われた。また、地元の方には水とともにある町の暮らしについて、語っていただいた。
- ・新旭町には、いたるところから水が湧き出している。町の人々は遠い昔からこの湧水とともに暮らしている。民家脇の小屋に引き込まれた湧水は、飲料水や炊事だけではなく、洗い物にも利用され、その洗いカスを水槽に泳ぐコイが食べる。このようなカバタが町の家々に残され、今も当たり前日々の生活の中で利用されている。しかしこの当たり前さが実は、川端文化と呼ばれるほどの価値を持つことに気付いたのは、外からやって来た新しい住民に教えられたことがきっかけだと、新旭町役場の方は語る。以来、勉強会や環境学習会を実施し、人の大切さ、水と人との関わりについて学んでいるという。

4. 道の駅 くつき

- ・昼食会場の「道の駅 くつき」にグリーンウォーカークラブの青木氏と朽木漁協組合長の沢本氏お招きし、それぞれ、川と人との関わりについて、朽木の漁業の歴史と現状について、お話しいただいた。
- ・朽木溪谷には、西日本ではめずらしいさつきの一種が群生し、オオサンショウウオも生息している。安曇川流域の、特に北川、針畑川といった支流の溪流の岸壁には北方系の植物も存在し、いまも多くの自然が残されている。
- ・最近、大きな洪水がないためか、河原に雑草や木が増え、安曇川の景観が変化してきたように思う。たまには洪水があって、それらを洗い流すことも必要なのではないか。
- ・自然を求めて安曇川を訪れる人が増えたことで、自然を利用しようという考えが広まったように思う。例えば、廃れつつある峠道や古道を復元しようという動きも盛んになった。
- ・安曇川のアユが減った。原因はたくさんあると思うが、そのひとつは、上流域での北川ダム建設にとともなう道路拡幅工事によって発生する川の濁りにあるのではないか。また、キャンプ客や釣り人によって、川が汚され、アユが乱獲されていることも原因のひとつだと思う。とにかく、安曇川を自然のままに置いておきたい。

5. 北川第2ダムサイト

- ・北川第2ダムサイト予定地では、河川管理者からダムの概要について説明が行われた。委員からは、ダムは治水、利水のための最終手段などではなく、世界中で行われている代替案によって美しい水ときれいな緑、さらには流域全体を守ってゆくことが私たちに課せられた仕事ではないか、これまでのダム建設一本槍のによる治水の方向性を見直して頂きたい、といったダム建設の中止を求める要望が述べられた。

6. 堅田内湖

- ・堅田内湖では、他の内湖にはない多種多様な在来種が棲息している独自の生態系について、委員と琵琶湖博物館の方に説明していただいた。
- ・堅田内湖にはワタカをはじめとする多種多様な在来種が棲息している一方で、堅田内湖とよく似た特徴を持つ平湖柳平湖にはほとんどブルーギルしか棲息していない。堅田内湖で在来種が多数棲息している理由は明らかではないが、在来種が増えやすい要因と外来種が増えにくい要因を集めて解析すれば、他の内湖の復元に役立つデータが得られるのではないだろうか。

淀川水系流域委員会 第7回琵琶湖部会 (現地視察) 行程

< 説明していただく人:推薦者 >

10:10	JR安曇川駅出発 (13)	
10:23 10:43	人工河川 (20) (3)	滋賀県水産振興協会 的場氏 滋賀県 ・人工河川について
10:46	安曇川北流河口 (4)	
10:50 11:10	安曇川の梁 (南流) (20) (15)	四河 北船木漁協組合長 駒井氏 梁漁と地域集団について
11:25 11:45	新旭町内 カバタ (湧水の活用) (20) (5)	新旭町役場環境課 日爪氏 他 (清水氏、安藤氏) 湧水の活用、水環境カルテについて
11:50 11:55	新旭町役場 (トイレ休憩) (5) (20)	
12:15	合同井堰 (2)	
12:17	関電荒川発電所 (車窓)	

⑧)
12:25 関電高岩堰堤 (荒川発電所用)
(車窓)

⑤)
12:30 道の駅くつき新本陣
13:30 【昼食】(60)

(15)
13:45 北川ダムサイト(北川)(20)
14:05

(20)
14:25 北川源流、生杉口

(30)
14:55 前川橋 (針畑川合流の様子)

(5)
15:00 葛川支所 (トイレ休憩、曙橋)(10)
15:10 明王谷、大津市葛川少年自然の家

(10)
15:20 花折トンネル
(安曇川と和邇川の分水嶺)

(5)
15:25 大津市伊香立途中町の集落

(25)
15:50 堅田内湖 (20)
16:10

(10)
16:20 堅田駅 (解散 懇親会)

グリーンウォーカークラブ 青木氏
朽木漁協組合長 沢本氏
朽木の漁業について

寺川委員
北川ダム計画について

琵琶湖博物館 井戸本氏、中川氏
堅田内湖について

印はバスから下車する地点